

令和4年度

# 甲信越北陸口腔保健研究会

## 第33回学術大会プログラム

開催日 令和4年11月19日（土）

（ハイブリッド開催）

大会長 山賀 孝之

（松本歯科大学公衆衛生学講座）

## 現地/Webによる学術大会開催のお知らせ

この度の新型コロナウイルス感染症により被害を被った方々、並びに関係者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

昨年開催の学術大会は Web による開催としましたが、今年度は現地・Web 併用による開催とし、口演発表・総会・学術大会は会場から Zoom を使用し配信する予定です（接続人数に限りがあります）。発表奨励賞は例年と同様に授与致します（賞金は5,000円と致します）。懇親会は感染状況を顧みて中止させていただきます。

幹事会は、会場と同フロアの会議室にて新しい生活様式に配慮し実施致します。当日出席できない方向けに Web での参加可能な態勢を準備しております。詳細は幹事宛にお知らせ致します。

### 【ご発表の皆様へ】

#### ●発表形式および発表用ファイルの提出

発表形式は口演（10分、質疑3分）です。当日 Windows Power Point で作成したファイルを受付にてご提出願います。配信環境の関係上 PC の持ち込みは出来ませんので予めご了承下さい。

#### ●口腔衛生学会雑誌掲載用事後抄録の提出

発表後、演題申し込みと同じ下記メールアドレスに、400～800字程度の事後抄録を提出して下さい。（口腔衛生学会雑誌に掲載されます）

### 【会場参加方法】

研究会会員様は受付にて参加登録をお願いいたします。また新規入会・会員様で令和4年度年会費未納の方は年会費の納付をお願い致します（領収書を発行させていただきます）。

### 【Web参加方法】

研究会だよりの記載通り、下記メールアドレス宛にお名前・所属団体・連絡先等を添えて Web 参加登録の送付をお願い致します。接続人数の上限に限りがありますので現地参加と迷われている方も登録をお願いいたします。各発表後に Web カメラ・マイクを通じたご質問も受け付ける予定ですので配信環境の確認をお願いいたします。本年度の学術大会 Web 開催では、Web 会議ツール「Zoom」を使用致します。その為、学術大会をご視聴頂くためには、事前にダウンロードしておく必要があります。ミーティング ID・パスコードは学術大会の数日前に参加登録をして頂いたアドレスに送付させていただきます。またパスコードは他の方にシェアしないでください。参加等でご不明・ご心配な点等ございましたら事務局まで是非ご連絡ください。

### 【会場・Web参加申込の問い合わせ先】

松本歯科大学公衆衛生学講座 宛（郵送、Eメール）

〒399-0781 長野県塩尻市広丘郷原1780

TEL & Fax : 0263-51-2153 E-mail : [sunao.sadaoka@mdu.ac.jp](mailto:sunao.sadaoka@mdu.ac.jp)

大会長：山賀 孝之（松本歯科大学公衆衛生学講座 教授）  
会場：松本歯科大学 30周年記念棟 3F 大会議室 常念岳  
（幹事会 会場：松本歯科大学 30周年記念棟 3F 会議室 前穂高・奥穂高）  
日程：12：30～13：30 幹事会  
14：00～14：30 総会  
14：40～15：30 一般演題①  
15：30～16：00 一般演題②  
16：10～16：50 特別講演  
17：00～17：15 表彰式・閉会

参加費：無料

（懇親会は中止させていただきます）

●幹事会にご来場される幹事の皆様には12時30分からお弁当をご用意致します。

**特別講演** 16：10～16：50

座長 山賀 孝之（松本歯科大学）

## コロナ禍におけるスペシャルニーズのある患者への対応

松本歯科大学地域連携歯科学講座  
教授 薮島弘之

新型コロナ（COVID-19）の感染拡大により社会生活に大きな混乱が生じるようになってから約3年が経とうとしている。歯科診療においても多大な影響が出るとされ、初期においては歯科診療で生じる飛沫が問題視され最も危険な職種であると指摘されていたが、いまだ歯科医療の現場で大きなクラスター発生は確認されていない。それに対し、高齢者施設や障がい者施設でのクラスター報告は連日なされている。スペシャルニーズのある人々の中には全身状態の問題から免疫機能が低く重症化しやすい人が多い。口腔ケアの自立度が低くう蝕や歯周疾患の増悪の危険性が高い集団であるにも関わらず歯科検診・歯科治療が敬遠されているのが現状である。

施設に限らず、スペシャルニーズのある方々の介護は体位変換や車いすの移乗など体を密接させる機会が極めて高い。また、口腔ケアの自立度が低いことから介護者がブラッシング時に飛沫を浴びる危険性すらある。要介護者の感染が生じると家庭であれば家族全員、施設であれば施設内の職員や入居者全員が濃厚接触してしまうため外出を控え、これまで定期的に行ってきた歯科受診が途絶えている患者も多い。自覚症状を訴えることすら困難な患者の場合、歯科疾患の重症化の恐れもある。この3年間に行われてきたスペシャルニーズのある患者に対する対策を報告するとともに今後の問題点について考えていきたい。

座長 小川祐司（新潟大学），鴨田剛司（日本歯科大学）

### 1. 長野県民歯科口腔保健実態調査の試行（プレ）調査結果について

○山賀孝之<sup>1)</sup>、新津恒太<sup>2)</sup>、定岡直<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 松本歯科大学公衆衛生学講座

<sup>2)</sup> 長野県歯科医師会

長野県民歯科口腔保健実態調査に先だって行われた試行（プレ調査）の結果を集計し、本調査に向けて調査方法や調査項目の妥当性を検討した。県内の 20 郡市歯科医師会のうち、11 郡市会に属する合計 14 歯科医療機関の受診者のうち、書面で同意が得られた 159 名から 15 歳未満 10 名を除いた 149 名を対象とした。各医療機関において、質問紙調査および口腔内診査が行われた。平均年齢は男性／女性それぞれ 59.7 歳／57.1 歳で全ての年代に対して普く調査は実施された。口腔内状況と、歯科の定期検診受診状況および口腔衛生習慣などとの相互関連をみたところ、既知の知識体系（例えば、定期歯科検診を受けているものは、歯石沈着がない／少ないもの、あるいは補助清掃器具を使用しているものの割合が多い）と比較して矛盾ない傾向となったが、本調査の対象者選定にあたって選択バイアスの排除が課題と考えられた。

### 2. 唾液検査がプラークコントロールの動機づけに効果的だった 1 症例

○岩間美樹<sup>1)</sup>、川原一郎<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 松本歯科大学病院・歯科衛生士室

<sup>2)</sup> 松本歯科大学大学院・健康増進口腔科学講座

疼痛や審美的な主訴をもつ患者に対してプラークコントロールへ意識を向けることは簡単ではない。今回、う蝕患者に対する唾液検査がプラークコントロールの行動変容へ繋がった症例を報告する。26 歳女性。う蝕を主訴に松本歯科大学病院歯科保存科を受診した。患者本人はブラッシングは十分に行っていて、これ以上どうすればよいかわからないとのことであった。初回の唾液検査（SMT, Dentocult SM）の実施して、う蝕治療完了後に 2 回目の検査とプラーク位相差顕微鏡像の確認、ブラッシング指導、生活習慣指導を開始した。初回検査の唾液 SM 菌レベルはクラス 2 判定だったが、2 回目検査でクラス 0 へと減少し、6 か月後の 3 回目検査でもクラス 0 を維持していた。う蝕治療を主訴に来院した患者に対して、プラークコントロールのモチベーションの向上と維持に唾液検査と位相差顕微鏡像、SM 菌培養結果といった視覚素材が効果的であることが確認された。

### 3. 燕市における在宅高齢者歯科保健事業について～笑顔の宅配プロジェクト～

○三鍋尚子<sup>1)</sup>、葭原明弘<sup>2)</sup>、土屋信人<sup>3)</sup>、桑原恵美子<sup>1)</sup>、

篠田有華<sup>4)</sup>、宮島沙友里<sup>4)</sup>、横山幸子<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> 燕市健康福祉部長寿福祉課

<sup>2)</sup> 新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野

<sup>3)</sup> 一般社団法人燕歯科医師会

<sup>4)</sup> 燕市健康福祉部健康づくり課

燕市では、平成 28 年に燕市歯科保健計画を策定し、燕歯科医師会との連携のもと、口腔保健事業を推

進してきた。令和元年度、葭原明弘教授が代表を務める「NPO 法人はーもにープロジェクト」が、地域包括支援センターや社会福祉協議会を巻き込み実施したのが始まりである。事業継続のため、令和 2 年度に「高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施」事業の一つとして位置づけ、昨年度からは燕歯科医師会に委託して事業を展開している。本事業は、口腔機能の低下が考えられる在宅高齢者に対し、歯科衛生士と地区住民が訪問することで、「お口の体操」等により口腔機能の維持向上を図ること、「通いの場」につなげフレイルを予防すること、また、地域で高齢者の健康づくりに協力する人材を育成することを目指している。この 3 年間では 19 人が参加しお口の健康への関心や意識の向上にはつながったが、コロナ禍でもあり「通いの場」への参加は難しかった。今後は、個から社会参加へつなげる仕組みを検討していく予定である。

## 一般演題② 15 : 30 ~ 16 : 00

座長 葭原明弘, 金子 昇 (新潟大学)

### 4. 「日常生活に影響する全身および口腔の症状:平成 28 年度国民生活基礎調査匿名データによる考察」

○煤賀美緒<sup>1)</sup>, 小松崎明<sup>1,2)</sup>, 菊地ひとみ<sup>1)</sup>, 元井志保<sup>1)</sup>,  
宮崎晶子<sup>1)</sup>, 三富純子<sup>1)</sup>, 小野幸絵<sup>2)</sup>, 鴨田剛司<sup>2)</sup>  
<sup>1)</sup> 日本歯科大学新潟短期大学  
<sup>2)</sup> 日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座

平成 28 年国民生活基礎調査の世帯票, 健康票の匿名化された 15,294 名分のデータを統計法第 36 条の手続きを経て入手し, 年齢階級が 30~69 歳で自覚症状 (歯科系 3 症状を含む 42 症状) および日常生活への影響の有無に関する質問の有効回答者 8,332 名 (男: 4,022 名, 女: 4,310 名) のデータを対象とした。研究倫理については本学倫理審査委員会の承認 (NDUC-106) を得て実施した。本研究に関して申告すべき利益相反はない。日常生活への影響の有無と各症状を分割表分析 ( $\chi^2$  検定) し, 単変量解析でのオッズ比 95% C.I. を得た。また, 日常生活への影響の有無を目的変数, 年齢, 性別, 就業時間, 睡眠時間等を調整変数として二項ロジスティック回帰分析を行い, 調整済みオッズ比および 95% C.I. を得た。その結果, 単変量解析での歯科系 3 症状のオッズ比および  $\chi^2$  検定結果は, 歯が痛い (1.35), 歯ぐきの腫れ・出血 (1.42 :  $p < 0.05$ ), かみにくい (1.95 :  $p < 0.01$ ) となっていた。歯科系症状の調整済みオッズ比は全て 1 未満の値で有意のものは無かった。調整済みオッズ比の値が大きかった症状は, 骨折等 (3.13 :  $p < 0.01$ ) や手足の動きが悪い (2.59 :  $p < 0.01$ ) 等で, 筋骨格系の症状が多く含まれていた。

### 5. オンライン予防歯科教育動画による企業従業員の行動変容ステージ向上の検証

○植木麻有子<sup>1)</sup>, 田村浩平<sup>1)</sup>, 木村大地<sup>2)</sup>, 木村美樹<sup>2)</sup>, 曾根博仁<sup>3)</sup>, 小川祐司<sup>1)</sup>  
<sup>1)</sup> 新潟大学大学院医歯学総合研究科 予防歯科学分野  
<sup>2)</sup> 株式会社 アイセック  
<sup>3)</sup> 新潟大学大学院医歯学総合研究科 血液・内分泌・代謝内科学分野

新潟県内の 17 企業の従業員 608 名 (男性 347 名, 女性 257 名, その他 1 名, 不明 3 名, 平均年齢 45.63 ± 11.24) を対象に, 予防歯科教育動画のオンデマンド配信を行い, 動画視聴前後でアンケート調査を実施した。教育動画では, 全身と口腔の関わり, 齲蝕, 歯周病, セルフケア方法, 口臭,

喪失歯、オーラルフレイルに関する知識や実技の説明を行った。アンケートでは、予防歯科に関するリテラシー、口腔保健行動、口腔内状態、歯科定期受診、生活習慣（運動、飲酒、喫煙、甘味摂取）について調査した。受講の効果について、行動変容ステージモデル（トランスセオレティカル・モデル）を用いて評価を行った。動画視聴により、従業員の予防歯科に関するリテラシーは有意に向上し、フッ化物配合歯磨剤の使用率が 51.6%から 63.9%に有意に増加した。また、歯科健診の受診や生活習慣を改善することで自身の口腔内の健康を保ちたいと希望する人が増加し、行動変容ステージの有意な向上が認められた。以上より、企業の従業員に対する健康教育として、オンラインによる予防歯科教育動画の有用性が示唆された。

## 交通案内

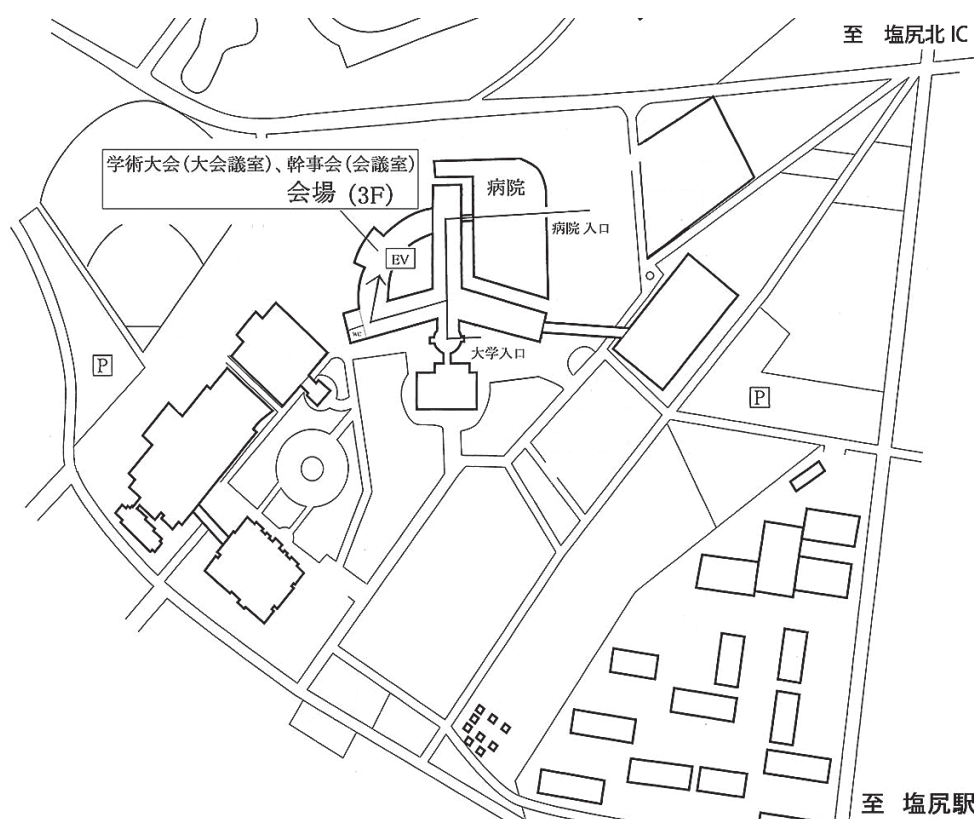
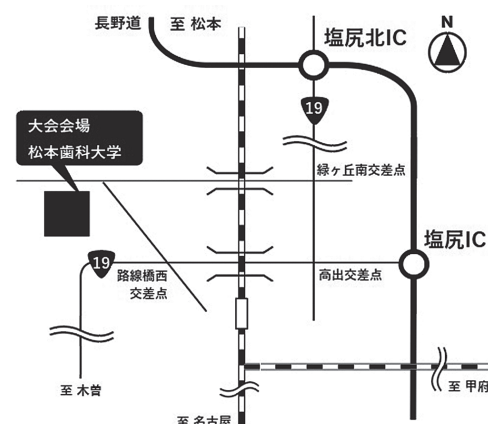
公共交通機関でお越しの際

塩尻駅～大学間を 8 時～17 時まで 15～60 分間隔で無料バスが運行しておりますが、他の手段はございませんのでタクシーをご利用ください。無料バスの発着時刻および乗車位置については松本歯科大学 HP([https://www.mdu.ac.jp/access/mdu\\_bus.html](https://www.mdu.ac.jp/access/mdu_bus.html))でご確認ください。

車でお越しの際

●幹事会・学術大会にお車で越しの場合は下図 **P マークの駐車場**をご利用ください。

**患者駐車場への駐車はお控え頂くようお願い致します。**



学術大会に関するお問い合わせは下記までご連絡下さい。

**事務局連絡先**：〒951-8514 新潟市中央区学校町通 2-5274

新潟大学大学院医歯学総合研究科 予防歯科学分野

Phone: 025-227-2858 Fax: 025-227-0807

<https://www5.dent.niigata-u.ac.jp/~prevent/kenkyukai/index.html>